

金剛寺

川上村神之谷地区にある質素なこの寺院は、15 世紀におけるある劇的な出来事を記念している。金剛寺の現在の本堂は 1716 年に建てられ、その隣接する神社は、南朝最後の皇族である自天王(1440~1457)とその弟の忠義王(1457 年没)という幼い天皇に捧げられている。兄弟が刺客の手で殺害された後、川上の村人たちが彼らの追悼のためにこの寺院を建立した。

本堂の隣には小さな収蔵庫があり、自天王の衣類、刀、甲冑が収められている。南朝は吉野を拠点としていたが、これらの品々は、王子たちの死後、村の住民たちによって川上へ取り返した。毎年 2 月 5 日に行われる御朝拝式では、収蔵庫の扉が開けられ、住民たちが敬意を表する。

この地に最初の寺院が建てられたのは、修験道という山岳修行の行法を創始したと言われる、役行者(634 年頃~701 年頃)の時代まで遡る。この寺院の本尊は、8 月 23 のみ一般公開される地藏菩薩像で、子供を守り、地獄に落ちた魂を救うとされる。この櫓の彫像は、役行者が彫ったものと伝えられている。

本堂の左側には、樹齡 800 年を超えると言われる巨大なケヤキの木が立っている。幹は空洞になっているが、今も力強く成長を続けている。